

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 1 月 29 日 (2015.1.29)

【公開番号】特開 2013-181092 (P2013-181092A)

【公開日】平成 25 年 9 月 12 日 (2013.9.12)

【年通号数】公開・登録公報 2013-049

【出願番号】特願 2012-45330 (P2012-45330)

【国際特許分類】

C 0 8 G 63/199 (2006.01)

C 0 8 G 63/78 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 63/199

C 0 8 G 63/78

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 12 月 5 日 (2014.12.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

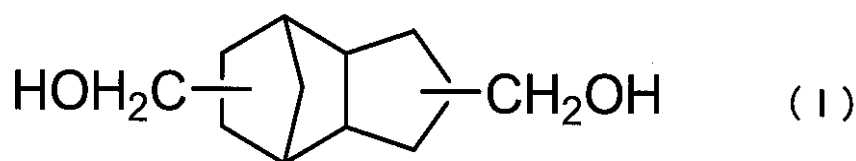
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記式 (I) で示される脂環族ジオールを全ジオール成分中 90 モル % 以上共重合させ、固有粘度が 0.60 ~ 0.80 dL / g 以下である共重合ポリエステルであって、ガラス転移温度が 110 以上であることを特徴とする共重合ポリエステル。

【化 1】



【請求項 2】

前記共重合ポリエステルがエチレンナフタレート単位またはエチレンテレフタレート単位を含有する請求項 1 記載の共重合ポリエステル。

【請求項 3】

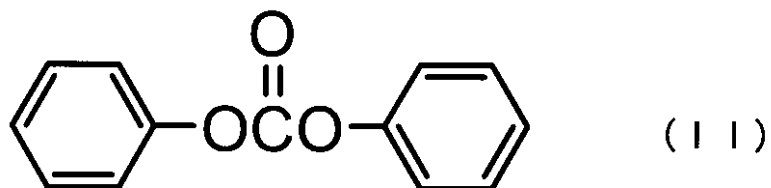
芳香族ジカルボン酸または芳香族ジカルボン酸の誘導体と、前記式 (I) で示される脂環族ジオールを原料とし、前記式 (I) で示される脂環族ジオールが全ジオール成分中 90 モル % 以上共重合され、固有粘度が 0.60 ~ 0.80 dL / g 以下である共重合ポリエステルであって、ガラス転移温度が 110 以上である共重合ポリエステルの製造方法において、少なくとも下記の工程を含んでなることを特徴とする共重合ポリエステルの製造方法。

工程 1：前記芳香族ジカルボン酸または芳香族ジカルボン酸の誘導体と、前記脂肪族ジオールおよび前記式 (I) で示される脂環族ジオールとを溶融状態で反応させ、共重合ポリエステルを得る工程

工程 2：前記工程 1 で製造した共重合ポリエステルと下記式 (II) で示される重合促進剤との反応で、共重合ポリエステルの固有粘度を重合促進剤との反応前の固有粘度より増

加させる工程

【化 2】



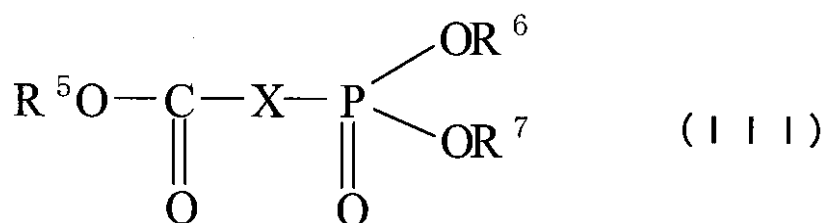
【請求項 4】

前記工程 1 と前記工程 2 を同一反応槽内で行なうことを特徴とする請求項 3 に記載の共重合ポリエステル製造方法。

【請求項 5】

下記式 (I I I) で表されるリン化合物を、前記共重合ポリエステルを構成する 2 価のカルボン酸に対して 1 0 ~ 5 0 m m 1 % 含有することを特徴とする請求項 3 または 4 に記載の共重合ポリエステルの製造方法。

【化 3】



[上記式中、 R^5 、 R^6 および R^7 は、同一または異なって炭素数原子数 1 ~ 4 のアルキル基を示し、 X は、 $-\text{CH}_2-$ または $\text{CH}(\text{Y})-$ を示す (Y は、ベンゼン環を示す) 。]